



株式会社日本触媒

2013年3月期決算説明会



2013年5月13日



日本触媒

お詫び

2012年9月29日の弊社姫路製造所事故につきまして、
お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げ、
ご遺族に対し心よりお悔やみ申し上げます。

負傷された方、近隣の皆様、関係各位に多大なご迷惑を
おかけし、深くお詫び申し上げます。



日本触媒

2012年度業績および 2013年度業績見通しについて



代表取締役社長

池田全徳

目次

1. 事故概要、原因および再発防止策
2. 姫路製造所の操業状況
3. 2012年度業績
4. 2013年度計画
5. 主要事業の動向
6. 新規事業の動向
7. 利益還元策
8. 信頼回復に向けて
—新生「日本触媒」

用語解説

SAP	高吸水性樹脂
AA	アクリル酸
AES	アクリル酸エステル類
EO	酸化エチレン
EG	エチレングリコール
NAII	エヌエイ・インダストリーズ Inc 【米国】
AAL	アメリカン・アクリル 【米国】
NSE	ニッポンショクバイ・ヨーロッパN.V. 【ベルギー】
NSI	PT.ニッポンショクバイ・インドネシア 【インドネシア】
SAA	シンガポール・アクリリック Pte Ltd 【シンガポール】
NSA	ニッポンショクバイ（アジア） Pte Ltd 【シンガポール】
NSC	日触化工（張家港）有限公司 【中国】

1. 事故概要、原因および再発防止策

● 発生場所・日時

場所：姫路製造所 アクリル酸中間タンク

日時：2012年9月29日（土）14時35分頃

● 被害状況

人的被害：死者1名（消防吏員）、負傷者36名

物的被害：当該タンクは大破し、周辺設備およびラック、配管、ケーブル等が破損

● 調査体制

事故調査委員会（2012年10月5日設置）

社外有識者4名、社内3名で構成

委員長 田村昌三 東京大学名誉教授

2013年1月18日 中間報告 — 直接原因と再発防止対策

2013年3月27日 調査報告書 — 直接原因と間接的要因、および総合的な再発防止対策

安全生産技術統括室（2012年10月17日設置）

姫路事故について、原因の究明、再発防止策の策定ならびにその全社的展開を行う

1. 事故概要、原因および再発防止策

- **事故原因**（出所：事故調査委員会「調査報告書」2013年3月27日）
アクリル酸製造施設内の高純度アクリル酸精製塔のボトム液（※1）を一次貯蔵する中間タンクにおいて、
 - ・タンクの貯蔵液量を増やしたにもかかわらず、
 - ・貯蔵液の天板リサイクル（※2）を実施しなかったために、冷却不足となり、
 - ・アクリル酸の二量体（※3）生成反応が加速され、温度上昇を生じた結果、
 - ・アクリル酸の重合反応という異常な状況を引き起こしたが、
 - ・当該タンク貯蔵液の温度検知および温度監視の不備により、これらの状況を把握できず、爆発・火災に至ったものである。

※1：精製塔のボトム（下部）から取り出される未精製のアクリル酸

※2：タンク下部の冷却された貯蔵液を配管を通じてタンク上部の天板に送り循環する仕組み

※3：アクリル酸の単分子が2つ結合してできる物質

- **事故調査委員会の提言を受けて以下を推進**
（出所：「信頼される化学会社への再生を目指して」2013年3月29日）
 1. 再発防止対策の水平展開
 - （1）リスクアセスメントを確実に実施する
 - （2）安全技術情報を収集、共有化し活用する
 - （3）教育、訓練を充実する
 2. 安全優先の風土を強化する
 3. 安全対策実施状況を検証する

2. 姫路製造所の操業状況

「危険物取扱施設一時使用停止命令」の影響を受けている主要製品の製造設備稼働状況（2013年5月13日現在）

（単位：万トン／年）

事業セグメント	製品名	姫路全体 生産能力	内稼働	比率	グループ全体 生産能力	内稼働	比率
基礎化学品	AA	46	-	-	62	16	26%
	AES	13	-	-	23	10	43%
機能性化学品	SAP	32	-	-	51	19	37%
	水溶性 ポリマー	5.5	-	-	5.5	-	-
	特殊エステル	4	-	-	4	-	-

- 上記以外の製品は、命令の解除を受けて稼働再開しています。
- SAPのグループ全体生産能力には、NAII（米国）の旧設備（4万トン／年）を含みます。

3. 2012年度業績

(単位：億円)	2011年度実績	2012年度実績
売上高	3,207	2,695
営業利益	311	100
経常利益	331	138
当期純利益	213	84
ROA (総資産経常利益率)	9.7%	3.9%

大幅減収減益

- ①AES市況下落　　：スプレッド悪化
- ②世界経済成長鈍化：全般的な販売数量減
- ③姫路事故　　　　：生産・販売数量激減（下期）

事故の影響　　2012年度業績への影響額

営業損益	△131億円	(生産・販売数量減少)
特別損益	△　　7	(休止固定費等【△89】、受取保険金【+82】)
合計	△138	

4. 2013年度計画

(単位：億円)	2012年度実績	2013年度計画
売上高	2,695	3,000
営業利益	100	150
経常利益	138	180
当期純利益	84	120
ROA (総資産経常利益率)	3.9%	4.9%

為替レート
国産ナフサ価格

US\$ = 83円、EUR = 107円
57,500円/kL

US\$ = 90円、EUR = 115円
65,000円/kL

増収増益

世界経済の緩やかな回復基調のもと
姫路の復旧に伴う生産・販売数量増加を見込む

計画達成の条件

- ① 姫路の復旧
- ② 原料価格に対応した製品価格の修正
- ③ 計画数量の販売
- ④ NS I プロジェクトの計画通りの完成・稼働

5. 主要事業の動向 (1) SAP

需給動向

需要 世界需要 約190万トン（2012年推定）

中期的には年率5~6%の成長を想定

供給 既存大手以外の新興メーカーも参入・増強を計画
2013年 増設計画世界合計 31万トン/年（当社グループを含む）

当社の状況とアクション

2013年度第4四半期には、事故前と同等水準の販売数量を想定

姫路製造所

AA設備の稼働再開を受けて、SAP稼働再開 10月には全面復旧を見込む

海外拠点

NAII（米国）：テキサスの新プラント（6万トン/年）フル稼働中

テネシーの旧プラント（4万トン/年）を期間限定で再稼働中

NSI（インドネシア）：新規設備（9万トン/年）は、計画通り本年8月稼働予定

NSE（ベルギー）、NSC（中国）：フル稼働中

シェア回復に向けた取組み

NSI 新設備の立上げ、安定操業、品質差別化、技術サービス提供等

5. 主要事業の動向 (2) AA

需給動向

- 需要** 世界需要 約430万トン（2012年推定）
中期的に年率4%程度の成長を想定
- 供給** 2012年 中国、韓国で増強計62万トン／年
2013年 世界で計40万トン／年の増設計画
（稼働時期、稼働率を勘案しても需給は軟化の傾向か）

当社の状況とアクション

2013年第4四半期には、事故前と同等水準の販売数量を想定

姫路製造所

46万トン／年 下期には全て復旧を見込む

新規設備（8万トン／年）：事故後建設工事は中断、稼働開始は2014年初

海外拠点

既存設備：高い稼働を維持

NSI（インド 初）増設（8万トン／年）は、計画通り本年8月稼働予定

5. 主要事業の動向 (3) AA/SAP世界展開

社名	国	場所	AA		SAP		
			2013年5月 13日現在	生産能力 (万トン/年) 増設計画 商業運転	2013年5月 13日現在	生産能力 (万トン/年) 増設計画 商業運転	
日本触媒	日本	姫路	46	8	2014年 年初	32	
NAII	米国	テネシー				4 (※)	2012年 12月
		テキサス				6	2012年 6月
AAL	米国	テキサス	6				
NSE	ベルギー	アントワープ				6	
NSI	インドネシア	チレゴン	6	8	2013年 8月		9
SAA・ NSA	シンガポール	ジュロン島	4				
NSC	中国	張家港				3	3
合計			62	16		47 (+4)	12
計画完成後 合計				78			59 (+4)

※ 事故対応のための期間限定運転で、2013年12月末までに稼働終了予定。

5. 主要事業の動向 (4) EO (5) 電子情報材料



EO — 川崎の稼働率向上に注力

①非EG化 安定的に70%前後を維持

②EOセンター化

・誘導品の新・増設

コンクリート混和剤用ポリマー、洗剤ビルダー 【既存敷地、完成】

(メタ) アクリル酸特殊エステル (2万トン/年) 【新規土地、本年12月稼働予定】

電子情報材料 — 姫路事故の影響を乗り越え2012年度増収

①光学材料用アクリル系樹脂 (アクリビュア)

TV用大型液晶需要は横ばいだが、スマホ・タブレット用小型液晶向けに需要拡大
2013年度よりフィルムの本格販売開始

②CF用レジストポリマー (アクリキュア)

バックライトのLED化進展に伴うポリマー高機能化要求に対応

6. 新規事業の動向

新エネルギー材料

①リチウムビスフルオロスルホニルイミド（LiFSI）

電池の長寿命化、安全性向上に効果大

売上高目標 2015年度 20億円

②固体電解質ポリマー（ICP：イオンコンダクティブポリマー）

2012年2月セミコマーシャル・プラント稼働

売上高目標 2015年度 数億円

③燃料電池用ジルコニアシート・セル

製品大型化に対応しプラント改造

売上高目標 2015年度 50億円

Bloom Energy（米）社向けを中心に販売を拡大



7. 利益還元策

事業拡大や企業体質強化等を総合的に勘案しつつ、
連結業績動向を見通し、中長期的水準向上を目指す

コア事業の拡大投資と姫路事故による収益悪化

設備投資額

2012年度実績：291億円

2013年度計画：310億円

2012年度配当（予定）

当期純利益 84億円

円/株	中間	期末	合計
普通配当	11	5	16

2013年度配当（予想）

当期純利益120億円

円/株	中間	期末	合計
普通配当	8	8	16

	2012年度	2010～2012年度平均
配当性向	38.7%	24.0%

8. 信頼回復に向けて — 新生「日本触媒」

(1) 中期経営計画

姫路事故による当社事業環境の変化

2013年度は、単年度計画の下、姫路復旧に全力
2014年度を初年度とする **新中期経営計画** を策定

- 重点課題
- ・組織風土の改革
 - ・安全優先の強化
 - ・既存事業の収益性向上
 - ・新規事業の確立

(2) 事故で再認識したこと

長年かけて培ってきた信頼を毀損

当社企業価値の源泉を再認識

- ①当社製品が裾野広く使われており、様々な**産業に欠かせない**原材料である
- ②AA・SAP以外にも日本および世界での**シェアが高い**製品が多々存在する
- ③品質・性能に優れており**他社品に置き換えられない**製品がある

8. 信頼回復に向けて — 新生「日本触媒」

(3) 信頼回復への取組み

- ①事故を起こさない**安全対策**の徹底
- ②**BCP**(事業継続計画)の強化
- ③**産業・社会への貢献度**の向上
 - ・自社の製品に自信と誇りを持って製造・販売
 - ・ニーズに合った新規製品を開発

これらの着実な実行により、
真に「社会から信頼される化学会社」となるべく、
全社員一丸となって邁進してまいります。
今後とも、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

おことわり



本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 IR・広報室

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7477

FAX： 03-3506-7598

URL： <http://www.shokubai.co.jp>